

「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」 2009(平成21)年1月5日

Jomon Archaeological Sites in Hokkaido, Northern Tohoku, and other regions

〈ユネスコ世界遺産センター 世界遺産暫定一覧表 記載内容(和訳)〉

【概要】

縄文遺跡群は、農耕・牧畜を基盤として形成された地球上の他の地域における新石器時代の遺跡とは異なり、完新世（かんしんせい）の温暖湿潤な気候に基づく自然環境の中で約10,000年もの長期間にわたって日本列島に継続した狩猟・漁労・採集を主たる生業とする、定住の生活実態を表す独特の考古学的遺跡群である。それは、地球上のある文化的地域において長期間にわたり継続した自然と人間との共生の在り方を示し、独特の文化的伝統を表す物証として顕著な普遍的価値を持つ。

日本列島の全域に及んだ縄文文化の中でも、広く落葉広葉樹林が展開した時期における東日本のそれは、食料資源の安定化とその利用技術の発展による定住生活域の拡大、集落の大型化、土偶や石棒などの祭祀具の急増などの傑出した内容を示す。

特に、北海道・北東北を中心とする地域では、円筒土器文化・十腰内式土器文化・亀ヶ岡式土器文化などの縄文時代を代表する独特の地域文化圏が繁栄し、特に亀ヶ岡式土器の文化は遠く近畿・中四国地域や九州地域に至るまで影響を及ぼした。縄文遺跡群は、海岸部・河川流域・丘陵地帯などの多様な地形に位置する集落跡・貝塚・環状列石・低湿地遺跡などから成り、食料資源が豊富な落葉広葉樹林や海・河川といった自然環境への適応の在り方とそれに伴う定住の確立・展開の過程を顕著に示している。

【顕著な普遍的価値の根拠】

縄文文化は、温暖湿潤な完新世の気候の下に自然と人間が共生し、約10,000年もの長期間にわたって狩猟・漁労・採集を生産基盤とする定住生活によって繁栄・成熟した世界史上稀有（けう）な新石器時代の文化である。

その文化的伝統の物証である考古学的遺跡群は、特に落葉広葉樹林が安定的に拡大する時期の東日本において傑出して見られ、地球上のある文化的地域において長期間にわたり継続した自然と人間との共生の在り方を示す資産として顕著な普遍的価値を持つ。

【真実性及び／又は完全性に関する記述】

地下に埋蔵されている考古学的遺跡及びそれらが形成する景観の観点から、すべての構成資産の真実性は十分に保持されている。

また、集落跡・貝塚・環状列石・低湿地遺跡など縄文文化を語る上で不可欠の諸要素が網羅されており、資産の完全性も確保されている。

【類似遺産との比較】

世界遺産一覧表に記載されている新石器時代の考古学的遺跡は、岩壁画・祭祀的記念物或いは生産遺跡であり、本遺産のように新石器時代において長期間存続した生活実態を表す独特な考古学的遺跡群について、類似資産として比較研究の対象とすべき一群の考古学的遺跡から成る資産は存在しない。

※原文はユネスコ世界遺産センターウェブサイト(英文)をご覧ください。

「Jomon Archaeological Sites in Hokkaido, Northern Tohoku, and other regions」

<http://whc.unesco.org/en/tentativelists/5398/>